

| | | | |
|---------------|--|---------|---------|
| 氏名 | 塩 出 純 二 | | |
| 学 位 の 種 類 | 医 学 博 士 | | |
| 学 位 授 与 番 号 | 博 乙 第 1885 号 | | |
| 学 位 授 与 の 日 付 | 昭和 63 年 3 月 31 日 | | |
| 学 位 授 与 の 要 件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当） | | |
| 学 位 論 文 題 目 | 間接蛍光抗体法を用いた咽頭スメアーよりの <u>Mycoplasma pneumoniae</u> の迅速検出法 | | |
| 論 文 審 査 委 員 | 教授 新居志郎 | 教授 矢部芳郎 | 教授 小倉義郎 |

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

咽頭スメアーから Mycoplasma pneumoniae (Mp) を迅速に検出することを目的として間接蛍光抗体法を行ない、基礎的ならびに臨床材料について検討した。

Mp FH株の培養濃縮液でウサギを免疫し抗体（抗MpウサギIgG）をを作製した。本抗体は、培地成分に対する抗体を含有していたが、これを吸収後はMpと特異的に反応し口腔内常在の主な mycoplasma との交差反応を認めなかった。本法は冷アセトン固定した咽頭スメアーを用い、一次抗体として20倍希釈の抗MpウサギIgGを、二次抗体として50倍希釈のFITC 標識抗ウサギIgGヤギIgGを反応させたが、健常者例の検討から前処置として正常ヤギIgGとの反応を加え、非特異蛍光を抑制した。Mp肺炎10例中 9 例に特異蛍光を認め、蛍光パターンは粘液中の顆粒状蛍光と上皮細胞表面のdiffuseな蛍光の2型に分類された。うち4例では血清抗体価の上昇よりも早期に蛍光を検出した。対照20例は全て陰性であった。

以上のことから本法はMpの特異的検出法であり、所要時間2—3時間で結果が判明することからもMp肺炎における早期迅速診断法として有用と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、間接蛍光抗体法を用いてマイコプラズマ肺炎の早期迅速病原診断法を考案したもので、マイコプラズマ感染症の領域において新しい診断法を開発した有意義な研究であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。